

# 賀茂縣主だより

## 暑中のお見舞とご報告

理事長 西池 成晃

盛夏近しを感じる季節になって参りましたが皆様にはお変わりなくお過しのことと拝察申し上げます。

平素は本会の諸施策にご支援を賜り心から厚くお礼を申し上げます。

この半年を振り返りいくつかのご報告を申し上げます。

一点めは三月で全員の理事、評議員、監事が任期満了となったのに伴い改選が行われ別掲の諸氏がそれぞれ就任し会務推進の任に当ることになりました。ご指導ご鞭撻を賜るようよろしくお願い申し上げます。

二点めは春季に賀茂社で行われる恒例の曲水の宴、競べ馬、葵祭の各神事に賀茂氏の伝統として奉仕し安全に終えることが出来ました。これは大神様のご加護でありまた関係者全員のご努力の賜物であると感じています。

三点めは本会所蔵の重文賀茂神主惣系図の部分修理と収納用桐箱の新調を京都府文化財保護課の特段のご指導ご配慮の元に実施し何れも五月末に完成させることができました。

所人主会  
行団法  
財団賀茂  
同族同族

四点めは既にご存知のように四月から五月にかけて京都府京都文化博物館で開催された「葵祭特別展」に協力団体として重文賀茂神主惣系図を出展いたしました。これは多くの出展史料の中でも同展の根本的史料であるとして学術関係者からも高評価を受け、同時に賀茂氏が賀茂社を創建するなど京都の歴史、文化の創始氏族であることを内外に明確に示し得た有意義な出展であったと言えます。

七月以降の本会の主な行事としては恒例の系図曝涼と祖先祭であり多数の会員の皆様のご参加をお待ちする次第です。そのほか、近く同族会ホームページが開設されます。これを通じ次代を担う青年層との対話が容易になると考えています。

また賀茂の地元の文化活動へも本会としては「歴史勉強チーム」の活動を通じ協力団体等の立場で地元の方々との共同作業を積極的に行いたいと考えています。これにより賀茂の地に眠る賀茂氏由来の有形無形の文化の発掘、継承、保存にも力が発揮でき成果も地元と共有できるものと考えます。既に京都産業大学が主導し新設しようとする「賀茂文化研究会」へも参加を予定しています。

何れの活動も会員の皆様の結束と参加がなければ成果を挙げることは出来ません。皆様の積極的ご参加をお願いいたします。最後に向暑の折からご自愛を切にお祈り申し上げます。

### ◎新役員決定

平成十五年三月二十九日付で、同族会寄附行為（規約）に基き次の通り役員が選任（任期三年）されましたのでご報告致します。今後ともよろしくご指導ご鞭撻を頂きますようお願い申し上げます。

#### 【理事】

理事長 西池 成晃  
副理事長 北大路 元成  
常務理事 松本 琢也  
理事 藤本 修一  
理事 岡本 利孝  
理事 岡本 清英  
理事 岡本 保太郎  
理事 藤本 文雄  
理事 堀内 保丸  
理事 市木 和光  
理事 藤本 光男

#### 監事

監事 市木 和光  
監事 藤本 光男  
以上理事十二名、監事二名

#### 【評議員】(アイウエオ順)

市木 忠顕  
市木 邦夫  
市木 秀幸  
市木 成俊  
市木 恒氏  
市木 邦保  
市木 武久  
市木 芳明  
市木 重明  
市木 寛  
市木 隆造  
市木 秀昭  
市木 義晃  
市木 浩久  
市木 梅辻 諄  
市木 清信  
市木 安正  
市木 伸弥  
市木 保誠  
市木 裕司  
市木 梅辻 諄  
市木 清信  
市木 安正  
市木 伸弥  
市木 保誠  
市木 裕司  
市木 以上二十一名

#### 【合同事務局員】

西池 成晃  
西池 一雄  
市木 忠顕  
市木 邦夫  
市木 浩久  
北大路 元成  
藤本 文雄  
堀内 諄  
堀内 潤  
藤本 琢也  
岡本 清信  
西池 隆造



平成十五年五月五日

# 競馬会神事奉仕者

(敬称略)

### 第四列目

### 第三列目

### 第二列目

### 第一列目

右方乘尻(浦野邦洋)	催 方(中大路竜直)	雑 色	扶 持(山本信吾)
右方乘尻(山本幸大)	催 方(堀内義晃)	催 方(藤木琢也)	催 奉行(戸田保輝)
右方乘尻(市 聡顕)	右方催方(岡本 修)	右方肝煎(山本正信)	所 司代(市 和顕)
右方乘尻(岡本征晃)	催 方(西池隆造)	陰陽代(梅辻 諄)	右方念人(堀内保丸)
右方乘尻(山本智也)	催 方(山本雅浩)	右方後見(岡本清仁)	神 主(建内宮司)
左方乘尻(市 法明)	催 方(北大路元顕)	右方後見(浦野邦夫)	左方念人(藤木 茂)
左方乘尻(山本浩矢)	催 方(藤木文雄)	雑 色	目 代(藤木典直)
左方乘尻(山本宗尚)	催 方(岡本清信)	左方後見(市 忠顕)	理事長(西池成晃)
左方乘尻(山本健太)	催 方(松田一雄)	左方後見(岡本正和)	扶 持(堀内保大)
左方乘尻(中大路大直)	催 方(山本武久)	頓宮預(藤木直介)	雑 色
左方乘尻(岡本氏和)	催 方(山本紀博)	左方催方(堀川 潤)	
		解 説(馬場弘文)	
		催 方(太田重明)	
		左方肝煎(山本浩久)	

## 第十回「賀茂曲水宴」に童子奉仕

・堀内保大君 (堀内邦保氏長男) 昨年と同じメンバーではありませんが齋王  
 ・山本晃大君 (山本寛人氏長男) 代の歌の披露、平安雅楽会奉仕の「蘭陵王」  
 ・山本信吾君 (山本裕司氏次男) の舞樂の奉納のなか、四君とも二回目とあつ  
 ・山本卓弥君 (山本 直氏長男) て羽觴を操る様はなかなか堂に入ったもの  
 で夫々の役柄を無事果たしてくれました。

## 葵歌壇

冷泉家玉緒会所属

上賀茂 北大路 和子

春曙

花の雲匂ふはかりのみよし野に  
ほのほの明くる春のあけほの

蓮

涼しけに露やとしつ朝風に  
はちすの花はほころひにけり

峯月

入る月の名残の影は峯に見えて  
霧も暗れゆく秋の山もと

枯芦

冴えわたり枯芦の間に水鳥の  
浮巢寒けの冬の夕くれ

夜郭公

ほととぎす待つは久しき夏の宵  
月にほのめき名のる一声

上賀茂 市 和 顕

千早古る賀茂の御霊の恩頼ゆぎ

今日も和けく古都の栄ゆる

在實の千年の秋を祝ぎて

御祖先の功績今に伝えん

## 葵俳壇

上賀茂 藤木 十紫子

春陽射す 鳥居の奥の 神山に

今齋王 禊ぎの川に 彩映えて

賑わいて 杜若道 乾きをり

上賀茂 北大路 みよ子

曲水の宴

社頭花散りゆく下に歌人座す

尺八の宴に流るる花筏

童子持つ竿に流觴誘われ

若狭の製塩遺跡調査探訪の記

藤 木 文 雄

一、この調査の発端は昨年の祖先祭で中大路保利さんに北陸甲信越地方での賀茂社と塩の交易に関するご質問をいただいたことにある。私にとって全くの認識外の領域で当然回答のよすがを持ちあわせていない。泥縄式に調べてみる事にし、思いついたのが賀茂社の荘園があり京都と関係の深い若狭の地である。その第一歩に小浜市を訪ね、寛治四年立荘の「宮河荘（のみやがわ）」（小浜市加茂）矢代浦（のしやう）（小浜市加茂）跡を訪れることから始める事にした。

二、塩を貢納したのではないかとの推量は確認することができなかった。ただ、若狭歴史民俗資料館技官の有馬香織嬢にはこの推論に大いに共鳴していただいたが、高名な専門学者の岡山大学の近藤義郎、狩野久の両名誉教授による発掘では、最新の若狭の土器製塩遺跡は十一世紀末までとなっていて、立荘の寛治四（一〇九〇）年はちょうどこの交に当るので微妙である。越前、加賀、能登、越中、越後などの北陸一円の土器製塩法は一斉に同じ運命を辿ったはずである。もつとも有馬嬢の話

では宮河からは十二世紀を降る塩釜遺跡も検出されているそうである。一般に、製塩法は十二世紀以降は土器製塩から「揚げ浜式」、次いで「入浜式」に変わり、塩産地も天候の関係から瀬戸内地方に中心が移る。賀茂社の荘園では、室塩屋御厨（播磨）、紀伊浜御厨（紀伊）、左方保（伊予）、矢島、柱島（周防）などである。東寺百合文書の若狭

国田数帳（太田文）には宮河荘「遠敷郡、現小浜市加茂全境と能登、竹長の一部を占め、ほかに大谷、矢代浦を荘領とした」は田数三十五町とあるのでやはり米が中心であったらしい。ただ、矢代浦の貢進物のなかには塩も見受けられる（賀茂別雷神社文書）明応二（一四九三）年二月十三日条、本家方年貢算用状の「浦方御年貢」に数物、芽、すし櫃、大鯛、塩とある。あるいは供祭物用としては商品性を無視して土器製塩が残ったのかもしれない。

三、中世半ばまでは、上賀茂社が北陸海浜一円に勢力を扶植し「供祭人（くさいじん）」を組織して大いに交易活動を展開し、山門（日吉社）や北条得宗家と覇権を競ったことが記録にある（網野善彦、須磨千穎、藤井讓治氏らによる）

「供祭人は古代の贄人（ひびと）の転化したもので神宮や両賀茂社に隷属して水産物の御贄の貢納を目的とした活動が、古代末期から、基盤としていた一定の湖沼域、海浜での漁撈、運送などの権利が特権化し、その特権を利用しての交易が主目的となり、貢納は免許税に過ぎなくなった。上賀茂社の供祭人は近江の安曇川御厨や、この若狭の宮河、矢代浦、加賀の金津、能登の土田、桃浦などを拠点とする勢力が有名。下鴨では堅田御厨が有名。中世後半からは衰えて座などによっていく」

四、宮川、矢代にある加茂社に詣でてきた。ともに、宮司も常勤せず祭事も滞り勝ちの様子で近辺に由緒に詳しい人もなく、やや荒れた有様であった。明治初年の神社明細帳では両神社の祭神とともに「事代主神」とされ、創祀の時期は寛治の立荘よりも遡るようである。若狭は大和朝廷の御食国（みけくに）とされたためか、初期の国造は朝廷の膳夫（ぜふ）を司った膳臣（ぜんしん）（のち高橋朝臣と改姓）で、恐らく雄略天皇のころに大和から移ってきたと思われる。そのとき葛城・高市の事代主神が勧請されたのかもしれない。膳臣を埋葬したらしい五世紀後半の前方後円墳や一言主神社などが近辺にある。その時から鴨を称していたのが白河院の寄進に当たってこの鴨社を拠り所に上賀茂の荘園

とされたのであろう。小浜市の図書館で確認できたことは、若狭にはこのほかに三ヶ所、加茂社があるがその祭神は別雷神となつてゐる。宮河荘の加茂社へは天正十六年の太閤検地による退転の直前まで毎年の祭事に京都の賀茂社から社家の「西池刑部季治」なる人が派遣され、また小浜市下村の加茂社には明治に至るまで「西池保皆」の子孫の方が社司を勤めたとの記録が残っていた。中大路さんの宿題にはほとんど回答できていないが、今後の課題としたい。

お知らせ

シンポジウム「上賀茂の文化を語る」  
（第一回賀茂の祭）が開催されます。  
是非ご参加下さい。

一日時 平成十五年十月二十五日（土）

午後一時三十分より四時まで

（参加費無料）

一、場所 京都産業大学神山ホール

一、講演 「賀茂の収穫祭」

上賀茂神社宮司 建内光儀氏  
「賀茂の競馬会」  
賀茂県主同族会・梅辻 諄氏  
大阪経済大学教授

「やすらい花」  
園田学園女子大学助教授 五島邦治氏

一、主催 京都産業大学 勝矢ゼミ

一、共催 賀茂県主同族会



## 賀茂歴史勉強会

梅 辻 諄

競馬の準備で忙しい三、四月を除いて毎月一回(土)、勉強会を上賀茂で開催しています。「賀茂注進雜記」の輪読を終わって、現在は釈注と現代語訳に取り組んでいます。短期間によくぞこのような本を書き上げたものと、今更ながら当時(江戸中期)の人々の学識の深さを感じ入るばかりです。その他、往來田や蹴鞠その他の賀茂ならではの話題がメンバーから提供され、それに就いての質疑応答も盛んで、毎回時間が不足するほどです。一回参加して見たいと思う方でも歓迎しますから、梅辻までお尋ね下さい。

われわれの勉強だけではなく、昔の人々の残した貴重な記録もコピーできるものは印刷して会員にお頒けしたいと思えます。現在、準備中のものは「南阿記」および「賀茂県主梅辻規清遠嶋顛末記事」です。入手御希望の方は梅辻までお尋ね下さい。

賀茂県主族が文化的に最も華やかであった時期は過去に二回あります。第

一は重保から氏久までの賀茂歌壇の時代であり、第二は季鷹、清茂、保孝ら多彩な文人墨客が輩出した幕末です。前者は平安の宮廷文化の一翼でしたが、

後者は歌人、書博士、有職故実ありで賀茂独自の文化サロンが形成されてきました。彼らの業績は今でも各家に保存されているものが数多くあり、その保存が急務と考えます。情報を頂ければ幸いです。

会誌「みたらしのうたかた」第三号の原稿を募集します。内容は賀茂の歴史や古くからの習慣など何でも結構です。そのまま印刷できるワープロ版原稿は九月末日まで、手書き原稿は早めに梅辻までお送り下さい。

## 系図・名簿チーム

松田 一雄

本年一月一日付け発行の「賀茂県主だより」十一号により家系図(仮称)発行の進捗状況を報告致しましたが、その後の状況を御報告致します。

先日第二回目の校正が終り、現在第二回目の校正中です。今後は完成見本を作り、「系図・名簿チーム」「合同事務局」「評議員会」「理事会」にお

いて印刷様式、部数、印刷及び経費の分担(同族会と会員)等協議したいと考えております。

よろしく御了承の程お願い致します。尚、皆様から御提出頂いた家系図を

拝見致しました処、御兄弟でありながら同族会に未加入の方があり、又会員の子又は孫で会員資格がありながら同族会に未加入の方が見つけられました。

種々の事情もあることと存じますが、御話し合いのうえ有資格の方は是非とも加入を頂き同族会行事等に御協力をされるようお願い致します。

加入申請書用紙は松田常務理事まで申し出下さい。

## 寄稿

### 二池の今昔

堀内 保丸

過日同族の方から、「ゴルフ場になる前の小池や蟻ヶ池の様子を何かに書きとめておいて欲しい」旨のお話があり、今回北大路副理事長のお薦めもありましたので、思い出すままに記しますが、誤りがあれば誰方かご訂正下さい。

小池は小一から小六まで夏毎に水練講習場に通っていたのでよく記憶に残

っています。三方が山で池畔に道があり、セメントで固めた水練場の両側には大きい桜の樹が並び、春には小さくて黒いおたまじやくしが散り浮かぶ花弁の水面に浮き沈みしていました。

向う岸には蒲が生い茂り、湿地帯のさきに京大演習林用か、二車線そこそこの未舗装道が走り、優雅な大王松の並木道を隔てたその向うはなだらかな傾斜地を作りつつ山裾に連なっていました。全景を一言で現わせば「幽邃静寂」に尽きます。

が、九月の水泳大会当日の水中射撃の音だけは山々に響いて、鳥鳴が更に喧騒を加えるといった変容を見せます。

蟻ヶ池の方は鞍馬街道沿いが拓けていて、やはり三方が山ですが、対岸に梶川(?)さんの別荘があるぶん開けた明るさを漂わせていました。池の南岸には大きい岩があり、その横に美事な山桜が立っていました。私は宣長の歌を習ったときなど、突差にこの山桜の気品と美を連想したものです。

さて、その向う岸の水辺は別荘の芝生に洗われていて、春さきなどはお庭の菜種畑に蝶が遊び、捨て小舟(和舟)がさざ波に揺れる長閑な風景は、岸の

山桜と共に「まさに此の世の極楽か」と若い魂を魅了して止まぬものがありました。

然し、民族痛恨のあの八月十五日を境に総てが激変!!「日本画」は追憶の苑に消え、代ってアメリカ伝来のストリップによる、山林は丸裸のゴルフ場と化しました。

無関係のようで我々に関係のある話を続けますと、私が岩崎六郎先生に承った話では「蟻ヶ池」はもと「あれがいけ」で「みあれ」「あれおとめ」等の「あれ」ではとの説、とすれば「あれ」は「あれまます」に通じて、臨在や出現を表わします。で、「あれが池」は「神様の現われ臨在される池」ともなり、極めて宗教的色彩を濃くします。

以下は傍証抜きの私的考察ですが、私はそのかみ賀茂玉依姫命が「あれが池」や賀茂川の「葛ヶ淵」などで修禊された後神山山頂での「みたましづめ」を通して、賀茂別雷神との「あうひ」（会う霊）の霊境にお入りになられたのでは？と愚考しています。藤原家隆の和歌を偲びますと、「小門の憶原」と「橋の小川」とはまさにみそぎの源流とでも申せましょうか。

## 会務報告

副理事長 北大路 元 顕

### ◎第二十九回理事会（出席十一名）

平成十四年十二月十五日

#### 一、平成十五年度行事予定の件

系図曝涼日が当初九月二十八日（日）を予定するも神社との調整の結果例年通り七月二十七日（日）となった旨報告があった。

#### 二、系図保存箱製作進捗状況の件

補助金を得るための「重要文化財修理設計書」を京都府文化財保護課で作成してもらい受理した。保存箱調製及系図の修理費用総額は八九〇万円程になり同族会の負担金は約一六〇万〜一七〇万円であり、京都府及京都市からの補助金が出る見込みであり、同族会の負担金については最終的には若干下廻る予定である事が報告され、了承を得た。

#### 三、藤木襄治氏馬具寄贈受納の件

理事長宛の「馬具類寄贈申出」の文書について、「賀茂悪馬流馬術競馬保存会残務整理責任 藤木襄治」とあるを「賀茂悪馬流馬術競馬保存会残務整理責任者 藤木襄治」と責任者である

事を明確に記入してもらい受納することとした。

#### 四、上賀茂地区由緒地立札建立の件

賀茂別雷神社が賀茂族の祖先より受け継がれてきた由来の案内及賀茂族由緒地の案内板を同族会事業として実現に向け検討したい旨の理事長構想が発表された。

#### 五、祖先祭アンケート結果と収支の件

十四年十月の祖先祭時に実施した参列者によるアンケート結果の集計が発表され又同時に祖先祭収支報告があり、今後の参加者増加の資料に活用する事とした。

尚アンケート結果については「県主だより」十一号（平成十五年一月日付発行）に掲載してあるので御覧下さい。

#### 六、その他報告事項

##### ①京都文化博物館開館十五周年記念

「京の葵祭展」開催に伴い同族会所蔵の重文系図のうち「古系図一卷、中古系図二巻」を貸出した。尚会員用に入場券の提供を受け全会員に配布した。

##### ②同族会の基本的な考察

理事長より来年度の課題として同族会・同族会員・同族会の役割・資格及活動等について指針を考え論議したいとの

意向が示された。

##### ③競馬九一〇年イベントへの協力要請

神社より平成十五年は競馬会神事が始まって以来九一〇年の節目に当るのでアイデア提案要請があった旨報告された。

##### ④座田家古文書マイクロフィルム紹介

国学院大学よりマイクロフィルム化された文献集が三十六万円で販売されており同族会として入手したいとの理事長の発言があった。

⑤外部団体等の文化講座講師は積極的に引受ける事としたい旨の発言があった。

⑥無縁状態の同族墓地共同管理への間接的支援を将来の史跡指定を含め考えたい旨の発言があった。

### ◎第三十回理事会（出席十一名）

平成十五年二月二十二日

#### 一、平成十四年度会計収入実績と支出予定及び平成十五年度予算案の件

①平成十四年度一般会計収入実績見込みが報告され全員が了承した。

尚期中に岩佐氏昭、故田口誠子両会員より寄付金があり、これを全額在実卿千年祭積立金に繰入れるとの報告あり

②平成十四年度収支補正予算編成案

重文系図修理及保存箱の調製の為の費用として八百九拾万八百五十円を計上。この費用は、国庫・京都府・京都市よりの補助金七百三拾貳万円（内府・市各拾万）と同族会の運用資金壹百五拾八万八百五拾円を以て充当し、この収支を今回補正予算として計上したい旨の提案があり全員承認した。

③平成十五年度一般会計収支予算案

系図修理以外の項目は原則として前年当初予算と同額とする基調で編成した事、前年まで管理費として処理していた情報化事業費・地域活動費を事業費とした事等の説明があり全員了承した。

二、役員等の改選の件

①評議員の改選

執行部より任期満了に伴う改選人事案の説明後理事長より今回は新体制定着途上のため一身上の支障ある役員交代に限定し極力再仕する方針である旨の補足説明があり、別掲の通りの評議員を選出し全員意義なく了承した。

②役員改選の報告

北大路副理事長より二月十六日開催の評議員会に於て、任期満了に伴い別

掲の通り改選役員を選出した旨報告があり、全員異議なく了承した。

尚今後の人選については実働可能且積極的な人材を登用すべしとの意見が述べられた。

三、同族会資格基準の一部見直しの件

西池勝太郎理事より、会員資格基準、及び同運用指針により、他姓となった直系血族の女子は会員資格なしとされた。しかしこれはなお強い関心と崇敬の念があり乍ら疎外感を抱かせる結果を招いている実例の説明があり、このような他姓の直系血族の同族会への参画を可能にするような救済策を容れた基準の見直しの動議があり、議長より基準再検討に着手することの可否を諮った結果全員着手する事に同意した。

四、その他報告事項

理事長より、重文系図の修理工程が京都文化博物館開館十五周年記念「京の葵祭展」の日程と重複を来たし同系図の展覧会出展に支障を生じる事態となり鋭意関係先と事態収拾に努力中との報告があった。

◎第三十一回臨時理事会（出席十名）

平成十五年三月二十二日

一、役員改選に伴う理事三役選任の件

議長より理事長一名、副理事長一名、常務理事二名を選任する為の候補者として別掲の候補者が示され諮った結果全員の了承を得た。

二、その他報告事項

①全役員の協力要請

理事長より理事三役は決定するも他の理事の協力なくして当会の運営、継続発展は望むべくもない全理事の更なる協力を要請する旨の発言があった。

②感謝状の発行

先に多額の寄附金を頂いた方々（三名）及馬具を寄贈された藤木襄治氏に対し感謝状を発行し早急に授与を行いたい旨理事長より発言があった。

◎第二十七回評議員会（出席十九名）

平成十四年十二月八日

一、平成十五年度行事予定の件

平成15年度下半期会議日程（於神社）	
(1)評議委員会	
第30回	平成15年9月23日(祝)10:00
第31回	平成15年12月7日(日)13:30
(2)理事会	
第33回	平成15年9月23日(祝)13:30
第34回	平成15年12月14日(日)13:30
(3)合同事務局会議（於神社、全て13:30）	
39回	7月20日
40回	8月24日
41回	10月19日
42回	11月16日
(4)系図展観	平成15年7月27日(日)但し雨天中止
(5)祖先祭	平成15年10月26日(日)
(注)神社の都合で日程、場所の変更もありますのでご承知おき下さい。	

二、系図保存箱製作進捗状況の件

三、藤木襄治氏馬具寄附受納の件

四、上賀茂地区由緒地立札建立の件

五、祖先祭アンケート結果及収支報告の件

六、その他報告事項

①京都文化博物館貸出（系図）の件

②平成十五年度活動方針の討議と報告

◎第二十八回評議員会（出席十四名）

一、平成十四年度会計収入実績と支出予定及び平成十五年度予算案の件

二、役員改選の件（氏名は別掲）

三、その他報告事項

①情報化展開の方針

②馬具寄贈の件

③曲水の宴童子参加

④系図チーム作業進捗状況

紙面の都合により評議員会報告は項目のみに止めた。乞ご寛容。

「編集後記」

・如何が過ぎですか。梅雨期の真只中にあると云うものの全くよく降るもんです。梅雨あけが遅れ七月二十七日（日）の系図展観が無事終了よう祈るばかりの昨今です。  
・今回も皆さんのお力添えでようやく十二号発刊に漕ぎつけました。今後ともよろしくお願い致します。